

第1回 とくしまこども未来会議

- 1 開催日時 令和6年5月20日（月）午前10時から
- 2 開催場所 徳島県庁 10階 大会議室
- 3 議 事
 - (1) 会長、副会長の選任について
 - (2) とくしまこども未来会議運営要領について
 - (3) 徳島県こども計画の策定に向けて
 - (4) 部会の設置及び今後のスケジュールについて

4 議事録

事務局	<p>それでは、定刻がまいりましたので、ただ今から「とくしまこども未来会議」を開会いたします。委員の皆さま方のご紹介は時間の都合上、別添委員名簿をもってご確認いただければと思います。また、本日の出席状況は委員30名中、出席委員23名であり、本会が成立していることをご報告いたします。</p> <p>それでは、開会に当たりまして後藤田知事からごあいさつを申し上げます。</p>
後藤田知事	<p>皆さん、おはようございます。本日は令和6年度第1回とくしまこども未来会議を開催いたしましたところ、そうそうたる皆さま方に委員になっていただき、素晴らしいスタートが切れることを本当に心から感謝と敬意を申し上げます。本当にありがとうございます。</p> <p>私自身、県政運営にあたりまして大きなビジョンとしましては、自由と繁栄を未来の世代に引き継げる、そういう徳島にしていこうと。その中で柔らかくいえば県民の全ての皆さまが「ずっと居りたい県」、「いつも帰りたい県」、「みんな行きたい県」徳島県、こういったビジョンを掲げています。そのビジョンを実行するためのミッションは何か。それが魅力度アップであり、安心度アップであり、透明度アップであるということでございます。まさに、こども未来につきましては全ての魅力度を上げなければいけない、安心度を上げなければいけない、透明度を上げなければいけない、これは全てにかかっていることだと思っております。</p> <p>私も就任1年が経ったわけですが、私から日々、千本ノックと剛速球が現場に飛んでおりますけれども、私からすれば当たり前のことであって、未来を考えたとき、10年先を考えたときに、地方創生戦国時代、一日とまれば徳島が一日遅れるという気持ちで皆さんに会うという思いを持っております。そして同時に政策立案におきましては、やはり現場主義であると。現場の皆さま</p>

	<p>まの意見があつてこそ政策が決まるのである、我々行政はそのプラットホームに過ぎない、職場にしか過ぎないのだという話をしております。今までも皆さんは行政に対して県のみならず、市町村、いろんな思いやご不満もあったかと思いますが、今日この瞬間から皆さんも一蓮托生でございます。我々と一緒に県民の皆さま方に評価を受けるというお立場になっていただいたということ、ぜひ皆さま方もご認識もいただき、ただ責任は全て、このこども未来部局、そして私がとります。ぜひ皆さま方からの忌憚のない意見、そして具体的な政策を出していただいて、そしてそれを我々に実行させていただきたい。そして先ほど申し上げましたビジョンを皆さま方と共有できれば、私は地方創生戦国時代に徳島はしっかりと生き残れる、勝ち残れると考えておりますので、何とぞよろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。</p>
事務局	<p>続きまして、議事に移らせていただきます。議事（１）会長・副会長の選任について、とくしまこども未来会議設置条例第３条の規定により、「会長及び副会長は委員の互選により定めること」となっております。まずは会長の選任をお願いいたします。いかがでしょうか。</p>
委員	<p>村崎委員をお願いしてはどうかと思っております。村崎委員は県の青少年健全育成審議会の会長でもありますし、そして教育学をご専門にされておりますので、この会の適任者ではなかろうかと思っておりますがいかがでしょうか。よろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>村崎委員を推薦するご発言がございましたがいかがでしょうか。</p>
	<p>【異議なし】</p>
事務局	<p>それでは、会長は村崎委員をお願いいたします。村崎委員、前の会長席へ移動をお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。それでは、会長が決定しましたので知事から会長に諮問をお願いしたいと思います。村崎会長、後藤田知事、その場でご起立をお願いします。</p>
後藤田知事	<p>それでは、とくしまこども未来会議、村崎会長を始め全ての皆さま方にお伝えをいたしたいと思っております。徳島県こども計画の策定について諮問させていただきます。</p> <p>「とくしまこども未来会議設置条例第１条の規定に基づき、徳島県こども計画を策定するに当たり、貴会議の意見を求めます。徳島県知事、後藤田正純。」</p>

	<p>よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、会長より、ごあいさつをお願いいたします。</p>
会長	<p>先ほど皆さまからご指名を頂戴いたしました徳島文理の村崎と申します。本日初めての開催となるこの会議、主に本県のこども施策の全体像や今後の方向性を示すものかと思っております。この計画の策定趣旨は徳島県のこどもが将来にわたって幸せな状態、ウェルビーイングで過ごせる社会にしていくことが大切で、徳島県で暮らすこどもの未来を左右する大変有意義、大事な会議かと思っております。知事が就任以降おっしゃっていらっしゃる新時代を担うのはもちろん現役世代もそうですけれども、これから大きくなっていく本県のこどもたちかと思っております。そのこどもたちが徳島で暮らして、生まれて良かった、育って良かった、そして外に行ったとしても徳島のことを気にかけてくださる、そして徳島に帰ってくださる、そのような県でありたいかと思っております。先ほど知事がおっしゃっていた「ずっと居りたい県」、「いつも帰りたい県」、「みんな行きたい県」そういう徳島県になるように、このとくしまこども未来会議の皆さんでこれからのこどもたちの未来をそれぞれのお立場からご発言していただいて、より良い徳島県になるように、こどもたちが笑顔で過ごせる、そのような県になることを心から願っております。ぜひ忌憚のないご意見を皆さまから頂戴できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは、ここから村崎会長が議長として進行をお願いいたします。</p>
会長	<p>ただ今、知事から諮問がありましたので、これから皆さま方にご審議いただくわけでございますけれども、審議に向けて副会長の選任を行いたいと思っております。副会長は互選となっておりますがいかがいたしましょうか。</p>
委員	<p>徳島県の少子化対応県民会議の副会長で子育て支援やこども学を専門とされている姫田委員をお願いしてはいかがでしょうか。</p>
会長	<p>姫田委員をご推薦するご発言がございましたがいかがでしょうか。</p> <p>【異議なし】</p>
会長	<p>では、副会長は姫田委員をお願いいたします。姫田委員、前の副会長席へご</p>

副会長	<p>移動のほどよろしく願いいたします。では、ここで副会長の姫田さまよりごあいさつを頂戴いたします。</p> <p>おはようございます。このたび、ご指名いただきまして副会長職を務めることになりました四国大学の姫田と申します。一言ごあいさつを申し上げます。先ほど知事から諮問があり、徳島県こども計画を策定するにあたって、この会議としての意見を取りまとめていくこととなりました。この「とくしまこども未来会議」はこどもに関する事業の関係者、学識経験者とこども関係のさまざまな分野でご活躍されている方々が委員にご就任されております。このような多様なバックグラウンドを持つメンバーが集まることで、それぞれの多様な知識と経験を生かし、こどもたちの未来をより良いものにするためにともに取り組んでいけるものと考えております。そのために委員の皆さまには活発なご意見と円滑な運営につきまして、これまで以上のお力添えをいただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>また、こどものための計画でありますので、こども・子育て当事者の意見を計画に反映できるよう、特に現場において当事者の意見を直接お聞きなられている委員の皆さまからは、その声についてもご紹介いただけたらと思っております。「こどもまんなか社会」の実現に向けて会長をしっかりとサポートしてまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございました。それでは、議事（２）に入ります。議事（２）とくしまこども未来会議運営要領について、事務局からご説明のほどよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>【議事２ 説明】</p>
会長	<p>ただ今の資料１についてのご説明についてご質問、ご意見がある委員の方は挙手をいただいでご発言をお願いいたします。よろしいでしょうか。特段ご意見等ございませんようですので、この内容で決定させていただいてよろしいですか。</p> <p>【異議なし】</p>
会長	<p>ありがとうございました。それでは、案のとおり決定いたします。</p> <p>続きまして、議事（３）に入ります。議事（３）徳島県こども計画の策定について事務局より説明いただいた後、委員の皆さまからご意見をいただきたいと考えております。事務局からまずご説明のほどをよろしくお願いいたします。</p>

事務局	<p>【議事3 説明】</p>
会長	<p>ありがとうございました。では皆さま、先ほどいただいた資料2「徳島県のこどもを取り巻く現状と課題」と資料4、今回我々が策定します徳島県こども計画の策定イメージ等を中心として皆さまからご自身の思いや経験等を踏まえてご意見を頂戴できればと思っております。第1回の会議ですので、皆さまの自己紹介も兼ねた上で、ご発言を頂戴できたらと思っております。また、ここが今日の会議で一番時間を取っている、つまり一番大事なところです。皆さまのご意見が資料4にある策定イメージのところにさらに反映されるということですので、2分程度というようなスケジュールではありますけれども、本日ご出席の23名の方々、順番にご発言を頂戴できればと思っております。意見交換は11時半までですので、本当に皆さまの自己紹介だけではなくて、今取り組まれていることについての課題であったり、その課題を超えるためにこの中に盛り込んでいただきたいというようなご意見がございましたら、ここでご発言していただいたり、また一周終わった後にまだ発言が足りないところがございましたら、挙手をしていただければと思いますので、ご質問等ございましたら事務局のほうも答えてくださいますし、まずはご自身の自己紹介、そして自分が取り組んでいる中での課題についておっしゃっていただければと思っております。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p>
委員	<p>簡単な自己紹介ですけども、私は9年前まで徳島ヴォルティスというプロサッカーチームで現役で徳島県出身で選手をしておりました。その引退後にパーソナルトレーニングジムを運営して、その中で肥満の方だったりとか、生活習慣病の方とかの予防促進とかを現在も取り組んでおります。その中で肥満児のところに着目をしまして、3年前に民間で学童クラブを開設しました。その中でさまざまな児童の問題点であったり、職員さんの問題であったり、学童の問題であったりとか、その中で不登校の問題であったり、さまざまなこどもの問題点を現実的に目の前で見ることによって、もっとより良い生活が送れるこどもたちが増えるように、その親御さまも充実した生活が送れるようにと思い、この委員を私自身受けました。現在、私が取り組んでいる事業としては学童事業の他に、スポーツ事業、サッカーのスクール事業と、これから来年、再来年にかけてですけども不登校たちに向けて通信制の高校を徳島県に設立したりとか、そういったふうにこどもの事業をこれからたくさん取り組んでいこうと思っております。</p>

	<p>私が今日、資料のご説明を受けて思ったのが、本当に今ここに委員でいるメンバーの中でも教授の方々であったりとか、現場で働いている方であったりとか、目の前で毎日大変な児童を見ている方とか、さまざまな立場の方がいると思うので、ぜひここでたくさんの方の意見を出して、行政の方もぜひスピード感を持って一年、二年、三年、四年後の政策ではなくて本当に現実的に半年後、1カ月後に何かプラスにこの委員メンバーで話し合ったことができる解決策を話し合っ、現場はもう日々大変ですので、それをよりこのメンバーでいかに徳島県が良くなるように話し合っ、スピード感を持って、この会議を進めていければいいなと思います。それは引き続きよろしく申し上げます。ありがとうございました。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。では次、よろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>現在 50 歳で私は 33 歳まで徳島で在住しておりまして、内閣府の国際交流事業に参加をしまして、そこがきっかけでいろいろ全国を飛び回っていたのですが、その活動で知り合った人と結婚をして横浜、川崎と 15 年間住んでいましたけれども、こどもの子育ての事情で 3 人のうち一人、障がい児と言われるこどもがおりまして、ぜひ徳島の板野支援学校に通いたいと思ひまして去年、帰省してまいりました。今現在、中高生の 3 人の男子の子育て中の主婦です。このような肩書を持っていますけれども、主婦目線ではこれからのこどもの未来を考える会議にぜひ出席したいと思ひまして会のほうから推薦をいただきました。</p> <p>実際に幼稚園、小学校、中学校と子育てをしてきて、徳島のほうが田舎になると思ひますが、都会と田舎で住んでみて、この徳島の良さというのを私は本当に実感しています。本当に徳島に帰りたいたと思ひて流れ着くようにこどもと一緒に戻ってきたわけなのですが、子育てをやっている中で思ふことはたくさんあります。実際にこの会議の中で全部自分の思ひが出せるかどうかというのとは分らないのですが、ぜひ子育て中の一主婦の意見としてご意見を聞いていただきたいと思ひまして参加させていただきます。今後ともよろしく願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。それでは続きまして、よろしく願いいたします。</p>

委員	<p>私につきましては現在、徳島県のスクールソーシャルワーカーという形で平成29年から関わらせていただいております。やはり先ほどの資料にもございましたように不登校のこどもさんというのが年々多くなってきているような現状になっております。不登校のところにつきましては、なかなかこどもの居場所というのがない状態というのがありますので、できるだけそういう不登校のこどもさんに対しての支援というのがもう少し手厚く、この会議の中で進めていければいいのかなというふうに思っております。難しいヤングケアラーの問題もあったりもしますので、皆さん方とご意見を交わしながら会議の中で進めていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。続いて、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>阿南市のほうで、保育所で所長をさせてもらっております。毎日、現場でこどもたちを目の前にして一番思うことを皆さまに伝えたいなと思っておりますけれども、こどもたちはやはりしっかりと愛してくれる人を求めています。そして何よりもしっかりと抱きしめてもらえるお母さんの愛情をすごく求めています。お母さんに振り向いてほしくて泣いたり、わがママを言ったりするのですが、お母さんはしつけのためとって振り払うようにこどもを叱って、そのままにしてしまうお母さんが最近増えてきているような気がいたします。やはり目と目を合わせて会話をするというのも減ってきておりますし、私はとても就学前のこどもたちで5歳児、来年は小学校に入学するというお子さんもたくさんいますけれども、すごく語彙力が少なくなっているなということを感じております。その中で語彙力を育てるにはしっかりと膝に抱っこしてあげて、絵本の読み聞かせというのをしてあげることがすごく大切なのだなということコロナ禍が明けましてすごく思っております。毎日、いろいろな取り組みをしていますけれども何よりもお母さんとの愛着関係をということを終始したお話になったのですけれども、いろいろな取り組みもさせていただいております。今後また機会があったらお話させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは続きまして、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>こういう場所でお話をさせてもらうのは久しぶりなのですが、今日は会の代表ということでちょっと緊張しています。母子家庭の皆さんが一番気にして</p>

	<p>いるのはやはりお金のことです。こどもが大きくなるにつれて金銭的に難しくなるようで、会のほうでも修学資金とかの申し込みがあって、私も実際に面接に立ち会ったりしているのですが、ご希望の方全てに修学資金とかがあげられるような状況ではありません。他の団体もそういうことをされていると思いますけど、先立つものが一番要るのだなということは面接のたびに思っています。たくさん面接をしてもその中からある程度限られているので、ご希望の方全員に出すことはできません。母子寡婦福祉連合会そのものが徳島県には今現在もありますけど、他所の県で次々となくなっております。香川県もなくなったので、香川のほうまで面接に行くようになっていきます。あまり知らない人が多いのかなとも思ったりもするのですが、私も実際に自分が役員になってみて初めてこんな状況だったのだなということを知って、私はその割にスムーズにこどもも大学も行き、結婚もし、もう孫もおりますけど話を聞くと世の中大変なのだということをつくづく思っています。微力ではありますが、少しでも母子家庭のこどもたち、そしてお母さんの力になればなとも思っています。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続いて、よろしく申し上げます。</p>
<p>委員</p>	<p>私のほうは全国で子育て支援活動を17年間やってきています。活動の内容は子育て中の当事者のお母さんたちで社会課題を解決しようという活動です。例えば森林の保全であったりとか、エネルギーの問題とか、そういったことをお母さんたちの力でサポートしていこうという活動を「学びの森のママまつり」というイベントを中心に行っています。当事者のお母さんたちだけで地域に大体、一日で2,000人から5,000人ぐらい集めるイベントになっていて、お母さんたちの力を地域で発揮していこうという活動を全国で展開してきました。個人的に介護の関係で、徳島出身なので半分徳島へ来るようになって、ちょうどそのときに虐待件数がかなりの数だということを新聞で拝見して、私はとても恵まれた環境でこどもの間育ったので、いろんな友達のお母さんやお父さんたちにも支えられて小さいときを徳島で過ごして、とてもいい思い出ばかりなので、その徳島が虐待で全国1位、2位と言われるぐらいになっているということに驚いて、何か今までの知見で徳島に貢献できることがあればということで、徳島での活動をスタートするように計画を今しています。</p> <p>特に今感じていることは、お母さんたちのということになるとすごく広がっていくということ、こどものサポートを何とかしたいなと思っています。</p>

	<p>こどもたちはやっぱり自分たちだけで行ける場所という、児童館か学童ということになるので、そこでの充実みたいなことをぜひ、このこども未来会議で議題に上げていただいて、その充実度、特に私たちの活動自体は裕福というか、生活貧困をしていないお母さんたちが社会活動に参画するという目線で今まで来たのですけれども、やはりそれと今回、徳島を眺めてみて機会の格差、こどもたちの家庭の環境によって体験する格差がかなり差があるということを感じて、子育てが熱心な家庭のこどもたちはキャンプに行ったり、いろんなところに家庭で行けるのですけれども、ご両親そろっていても生活するのが大変でというこどもたちは週末とか休日でも両親が働いているので、一人で過ごすという姿をあちこちで見掛けることがあって、そのこどもたちのサポートをぜひ、この会議でテーマにしてこどもたちが一人でも安全で、そしていろんな機会を体験できるようなサポートを準備できたらなということだと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続いて、よろしくお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>私たちは生まれ育った環境によって人生を左右されず自分らしく人生を歩める社会を地方まで実現していくところをビジョンに掲げて、今は海部郡を中心に活動しております。具体的には不登校のお子さんの支援であったりとか、思春期のお子さんがふらっと来れる居場所であったり、こども食堂であったり、最近は引きこもりのお子さんには訪問支援をしたり、ワンストップで切れ目なく訪問から就労のところまで小規模ですけど多機能型でサポートしております。もともと私自身は関東のほうで学習支援を3年ほどしてまして、そういったこどもたちの格差みたいなところをリアルに感じて、ただその支援にも地方と都市部にはどうしても支援の量も違いますし、その支援の量にも格差があるなというのを感じて、過疎地のモデルをつくっていくのだというところで帰ってきて活動しております。</p> <p>今回、計画に対して読ませていただいたときに思っているところは今3つあって、1つは垣根をいかに越えていけるのかというところはポイントかなと思ってまして、例えば不登校のお子さんといっても私たちのところは無料で居場所をやっているのですが、不登校のお子さんなのですけど背景にはひとり親であったり、生活困窮が半数以上というところで、不登校という切り口から見たら不登校支援なのですけど、その背景には家庭の要因であったり、ひとり親の支援であったり、ヤングケアラー、いろいろな複雑な問題がある中で部署を越えていける計画になっていくのかというのは非常に大事かなと思っています。</p> <p>2つ目のところが徳島県の中でも地域間の格差があるというところは考慮した上で計画を立てていかないと、特に海部郡だったり、郡部のほうはどうして</p>

	<p>も遅れがちになるかなと思うので、そういったリソースが少ない地域、地方でもどうやっていくのか、それを計画にどう盛り込んでいくのかというのは非常に重要な視点かなと思っています。その上でしっかり数値目標を設定をして、ちゃんとモニタリングできるような計画にしていきたいなと思っています。</p> <p>最後3つ目はこどもの意見を聞くというところが結構ポイントになってくるのかなと思っています。いかに聞いていくのが難しい部分でもあるのですが、海部郡であるあるなのが不登校のお子さんとか、いじめとかは私たちのところにはすごく情報は来るのですが、議会とかには今までゼロで上がってたりとか、なかなか数値としては上がってこない声がたくさんあるので、そういったところを反映できる計画になっていけたらいいなと思っています。まだまだ未熟ですが、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。部署の垣根を越えたような案であってほしいということと、地方においても地域の格差はあるのだということと、こどもの意見の吸い上げ方をどうするかという3つです。ありがとうございます。続いて、委員よろしくお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございます。よろしくお願いいたします。私どもの活動としては、こども食堂を広げる、やりたい人に寄り添い負担、不安を軽くする、そしてこども食堂を継続してもらうために居場所の確保として努力するというふうなことを目標にしております。こども食堂、生きていく上で食べることを含めたこの存在というのは必要だと思って活動しております。私はその中でもこども、大人、シニアに関わらず孤独、孤食を減らして行って、それから子どもたちに一人でも自己肯定感の強いこどもを増やしたいというふうに思っております。私が子育てしていた時期よりも今は結構、子育てに寄り添う期間とかはたくさん増えたにも関わらず、いじめの低年齢化があったり、不登校が増えているということを見ると、大人に安心してこどもはいないのではないかなと。本来はこどもは大人を見て未来の自分を描いていけるだろうになというような不安を常に感じております。こどもは大人の背中をちゃんと見ていて、大人にとっては鏡だと思っております。そんな中で先ほど知事がおっしゃってくださったように、未来に引き継ぎ、子どもたちを中心に誰もがウェルビーイングな徳島でありたいというふうに願い、私はこの委員を引き受けました。今後ともよろしくお願いいたします。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。続いて、委員よろしくお願いいたします。</p>

委員	<p>私は今、3歳と5歳のこどもを育てている母親なのですが、自分が産後うつになったことをきっかけにコロナ禍で当事者同士集まり育児の孤立、孤独を防ごうと始まった活動をしております。子育て中の人同士、住民同士がピアに見守り、支えるコミュニティーへと今は発展しまして、現在は沖洲にある東部防災館おきのすインドアパーク、県立施設の中で子育て広場を開いているのと、鳴門、小松島、阿南の出張先で妊産婦親子、地域の居場所を開いております。同時に子育てする人以外の孤独、孤立も地域の問題となっておりますので、その両方を解決できるような居場所づくりを目指しております。</p> <p>私は今、課題と思っているのが2つありまして、1つ目は私たちの居場所に来た方がおっしゃるのはママ友、パパ友ができた、一人じゃないのだと思えたという声があります。母であっても、妻であっても、一人の人間として受け入れられる居場所が今必要だと思っています。核家族だとか、シングル家庭も多いです。だけれども今、こども食堂などこどもへのサポートは広がってききましたが、こどもを産み育てる、特に妊娠中であつたり、低月齢のときに過ごせるような子育ての根っこを支えるサポートが不足していると思っています。地域に子育て支援拠点はありますが、こどもの居場所に今はなっているような状況があつて、やはり切れ目なく日常的に子育てに寄り添うような仕組みが今、地域に足りていないと思っています。</p> <p>2つ目は、私が産後うつになった理由の1つに情報の弱者だったというところがあります。今、地域に行政や医療機関、私たちのような支援団体のサポートが実はたくさんあります。だけれども私自身、そのサポートを妊娠中に得られていなかった、そしてこどもが小さい、とても助けてほしいという状況のときに得られていなかった。だから今、点と点になっていて面になっていない、対象者に届いていないからこそ、そういった制度だとかサポートも活用されていない問題があると思っています。だからこそ、それぞれの機関が手と手を取り合うことが今必要だと思っています。どうぞよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。続いて、委員よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>私はこども食堂をさせていただいてもう10年近くなるのですが、深く考えなくてこどもたちに食事をたくさん食べてもらいたいな、一緒にわいわい言ってもらいたいなというので簡単に思つてこども食堂を始めました。県西部、山間部でありますので市内とは違ってやはり今現在、私は生まれてずっと池田町内で住んでおりますが、昔と比べてこどもたちの数がすごく少なく高齢化して本当におじいちゃん、おばあちゃんの世界になってきております。それでこ</p>

	<p>ども食堂をするに至って今一緒にボランティアでお手伝いをしてくださっている方が70後半から80代の方が今、一生懸命楽しくしていただいている。それも皆さんの元気も含めてこどもたちと一緒に話をする機会もあっていいのかなと思っているのと、みよしこども食堂をつくったというのは最近5～6年の間に池田町内とかでこども食堂が7件ほど増えました。つい最近からも4件ほど増えましたので、県西部というか三好の皆さんの悩み事とかいろいろ意見もあると思いますので、そういうのをやはり反映して、市内とは県西部というのは違うと思います。</p> <p>うちはまだ池田町中になるのですけどもっと山間部、祖谷とか山城というのは本当にこども食堂をしてほしいといってもこどもがいない、こどもが2～3人であとはもう高齢者ばかりですと。それでもいいのではないですかと。皆さん高齢者の方とこどもたちが一緒に1カ月に一度でも合う機会があればいいのかなというので、ぜひつくってほしいと今広げてはおります。山間部だけの問題で市内とは比べてこどもたちも塾はありますが、いろんな習い事とか行くところも少なく、居場所というのもなく、うちに来ている各団体の方たちのそれぞれのやり方、考え方も違うのですけれども、それはそれで皆さん頑張ってくださっているので広げていきたいというのと、山間部でありながら学校とか協力的なところがまだ少ない。それと、おじいちゃん、おばあちゃんとかはこども食堂というと貧困のこどもたちが行くところなので行かせるなという感じの意見があるみたいなのです。最近コマーシャルとかで「むすびえ」とかも出ているので、そういうふうなのは大分聞いていただいて変わってはきているのですけれども、やはり今から少しずつでも広げていけるように、話がみんなできて、県のほうへも話ができるようにしていきたいなと思っておりますので、私は大してきちっとしたことは言えない、自分たちの考えでしか言えないのですけれども何とか、こういう委員になったということで県西部の意見をまた反映していきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
会長	ありがとうございます。続いて、委員よろしくお願いいたします。
田口委員	<p>どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>実は小児科外来と申しますのは毎日、こどもたちへの家族の愛であふれております。逆に外来に連れてこられない家族のことをふと考えたりもします。現在、発達障がいと診断されるこどもたち、その中には自閉症、注意欠陥多動性症、学習障害といわれるこどもたちが年々増え続けております。教育支援委員会をしておりますけれども、そちらのほうでも通級指導教室、特別学級に診断するこどもたちが年々増えております。また、それらのこどもたちの中に不登校に</p>

	<p>つながっているこどもたち、またいじめにつながっているこどもたちがいます。ただ、よく考えてみますとこどもたちは結局、一人一人です。一人の中にそれぞれ自閉的なことがあったり、多動的なことがあったり、また学習障がいということがあったりします。つまりはそういういろんな診断で分けるのではなくて、結局は一人一人を切れ目なく大事にずっと見ていくということが大事になっていくと思っております。私たちはこの会を通して先生方、皆さま方からご意見をいただきまして、それらのこどもたちにずっと切れ目なく取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしく願いをいたします。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続いて、委員よろしく申し上げます。</p>
<p>委員</p>	<p>専門は小児科医でもう 47 年、小児科医をしていますと外来に来るこどもたちは本当に減ってきております。出生数は減っていることも知っておりますが、医療にかかる、病院・クリニックにかかるこどもたちが本当に減ってきていると思います。それから地域でもこどもたちの声が聞こえない、遊ぶところの声が聞こえないと思っております。</p> <p>県の医師会では主に 2 つの事業を賄っておりますが、1 つは学校保健委員会ということでこどもたちの健康と命を守るための健康管理システム、例えば肥満健診であるとか、心臓健診とか、尿健診とか、そういったことの健診を通してこどもたちの健康と命を守っております。もう 1 つは大きなテーマとしては感染症対策委員長を拝命しまして、2020 年から COVID-19 の感染の流行が始まりまして大きく我々の生活も含めて、こどもたちの生活が大きく変わりました。同じような状況が続くことではなくて、そういった感染症であるとか、災害とかのことによってこどもたちの生活も変わるということも踏まえて、子育てのこと、支援のこと、こどものことに関しても考えていけないといけないなというふうに日々思っております。</p> <p>虐待であるとか、事故であるとか、非常に悪いニュースが多く聞こえておりますので、そういったこどもたちの被害のないようなこどもたちの世界を私たち大人がつくらないといけない。先ほどから言われているように大人の背中を見てこどもたちが育つ、私たちもしっかりしないといけないのですが、長く県少子化対策委員会の委員長、県民会議の委員長を務めてまいりまして多くの課題に徳島県も取り組んでいただいておりますので、今後ともこのこども未来会議で、先ほど多くの委員の先生方の熱い気持ちが伝わりましたので、ぜひとも一緒にやっていきたいと思っておりますのでお願いいたします。以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続いて、委員よろしく申し上げます。</p>

<p>委員</p>	<p>里親というのはどちらかというと対処療法といいますか、私たちが預かる子どもたちは虐待を受けた子ども、また実の親に育てていただけない子どもたちを委託されて育てているという対処療法なのかなといつも思っています。ですが、平成28年度に児童福祉法改正から全ての子どもが家庭で育つ権利を持つという意味にあっても、なかなかそこから里親の委託率は全く変わらず、去年度でも徳島県の里親委託率は13とか15ぐらいですので多分、全国的にもワースト5ぐらいに低迷しているのが今のまだまだ現状だと思います。というのは、徳島県でも里親の認知度というのがまだまだ少なくて、やはり里親にとられるのではないのかという思いがあるのではないのかなと思っています。</p> <p>この会議に直接は関係ないのですが、今、徳島県に100名ぐらい里親の登録者がいますが、今日の出席者の委員さんの先生方が全員登録していただけたら多分160人ぐらいになって、著名な先生方が里親になったというのはニュースになって、徳島の委託率も上がるのではないのかなと思いますので、一人で結構ですので最初をお願いをさせていただけたらなと思います。というのも福岡では児童福祉法改正後80%ぐらいが家庭養護に変化しています。それはやっぱり施策の違いだと思いますので、その辺もまず全ての子どもが家庭で育つ、もちろんひとり親でもいいのですが、でない私が今まで預かってきた子どもたちも乳児院で育った子どもが4歳で委託されたときに、一緒にお風呂に入ると、女性の保育士さんしかいませんので、男性のすね毛があるのにびっくりしてとまどっていたこととか、家庭で育たないと分からない、親の当たり前の行動が自分たちが自立するときに分からないというふうになってしまって、それがまた虐待の連鎖につながっている大きな要因の1つではないのかなと思います。</p> <p>先日、今年に入ってから私は小学校6年生の男の子を委託してくれないかという話をいただいて、3カ月ぐらいマッチングしたのですが結局はその子はまだその施設にいたいということでマッチングは不成立になりました。ということは小学校6年生、高学年になるとやはり自我が出てきます、まだそこにいたいということになるので、できる限り小さい年齢の子どもさんが家庭で育つ権利を、この徳島でももっともっと増やしていただきたいなと思います。</p> <p>私プライベートでは息子夫婦と孫3歳、1歳と一緒に過ごして、そこに今は高校生の男の子の委託児童と過ごしています。家庭で育つと赤ちゃんと一緒に育って行って、その子は4年目ですが、だんだんと笑顔が増えてきたと思いますし、うちから措置解除して出ていった子どもたちがまたたまに里帰りとしてお正月とかお盆に帰ってきたときに、うちの子どもたちと一緒に遊んだりするのが普通の本来の当たり前の家庭の姿をその子たちに提供できるのは里親だけだとも思いますので、どうか大きな施策の方針で徳島でも家庭養護を中心とした施策を行っていただくために私もいろいろと意見を述べさせていただきたいと思っています。</p>
-----------	---

	<p>そしてまた、もう1つは少子化が進んでいるのに虐待だけが増えているというのは本当に変な話で、私は息子夫婦を見ていると子育てはもう学ぶ時代に来ているのかなと。家庭でうちのように三世同居が確実に少なくなっていますので、わざわざ学ばないともう子育てはできないような時代になっているのかなとも思います。今までいろいろな委員の皆さま方がママ友・パパ友がいない、そういう相談できる場所がないという現状の中で、まず家庭で学べる機会を設けて、こういうときにはこういうふうにと、私たちがおじいさん、おばあさんから受け継いできた子育てのコツを今の若い世代にも少し伝えることができれば、温かな徳島のおもてなしの文化が広がる徳島版子育て法みたいなのができればいいのかなというふうに今思っております。どうか子どもたちが家庭で育つことを僕はお願いしたいと思っておりますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>委員</p>	<p>当会は施設、病院で働いている助産師と地域で活動している助産師と一緒に活動している団体です。思春期の性教育から出産施設で働いている助産師のスキルアップの研修、産後ケアの事業、子育ての相談とか、いろんな活動しております。更年期のこともしておりますので、ライフサイクルに沿って継続した支援ができる専門職の団体です。今回のこの事業に関して思うのは、そういうふうな視点で子どもを産む前からプレコンセプションケアの視点ということも考えていただいて、思春期からの支援、それは子どもたちの支援になります。</p> <p>それともう1点は、先ほど何度かお話が出てきましたが、お母さんが子育てをしているとき、今現状でかなり子育てで悩んでいます。一人で孤立した子育てをしているお母さんも多くいます。そこでの支援とか、子育てにおける支援、その中で常に専門職である助産師が、あなたのそばには助産師がいるという理念を持って活動をしていますので、この機会にこの事業にいろいろな意見を出していきたいと思っております。よろしくお願い致します。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続いて、委員よろしく申し上げます。</p>
<p>委員</p>	<p>児童養護施設について皆さんご存知でしょうか。児童養護施設というのは児童福祉法で親からの暴力とか、ネグレクト、食事を食べさせてもらうことができなかつたりとか、あと親からの厳しい言動がありまして心理的虐待、そういったことが児童相談所とか警察のほうに連絡が行きまして、その後で児童相談所が家庭訪問したり、どうするかということをして、このままの状態だったら危ないというケースについては児童相談所がお預かりして、何とかこの子を守</p>

ってあげるということで進んでおります。そして、このような状態が続くのであればどうするかということ計画を立てまして、ここにおられます里親さんとか、児童養護施設のほうに入ってきます。以前は親御さんが死別とか、行方不明といったケースが多かったのですが、近年はひとり親の家庭のケースが多くなったり、あとはお父さんとかお母さんがいても入所してくる、今までにあり得ないようなケースが入ってくるようなことが増えてきておりますので、やはり核家族化ということの中で親御さんにしても子どもにしても、どう整えていったらいいのかというのが共稼ぎの中での大きな悩みなのではないかな。そういった中でこの子たちも大きくなったときにどうするかというすり合わせみたいなことを子どもに伝えていくということはものすごく大切なことかなと思ったりいたします。

以前はそういった中で来ていますけれども今現在、児童養護施設といたしましては、やはり子どもの権利擁護、子どもの声を聞く、子どもの成長に応じて、どうこの子に伝えていくかというのが1つの大きな課題でありますので、そういった子どもの声をいかに推進していくかということは、この場を借りて、みんなで推進していただければ少しでもこの子に向き合う時間をどうつくるか、まさに業務に追われてしまって、どの職場でもなかなか子どもと関わることができないというのが今の現状なのではないかなと、少しでも手を休めて子どもと話をしたり、絵本を読んだりする場面もつくることで助かっていくところもいっぱいあるのかなと思ったりいたします。

それと、児童養護施設では入所して生活をして、そしてやがて児童福祉法で18歳になれば退所していきますけれども、なかなかケアが行き渡らないというのが本音でございます。最近ケアリーバーに向けてどんな支援ができるかということ国の方でも立ち上げて取り組んでいく検討を始めておるとい状況であります。

それと、徳島県では全ての子ども・若者が身体的、精神的、社会的に幸福な生活を送ることができる社会を目標に掲げておるとい状況であります。いせん虐待の通報が20万件を超えたり、そういった中で児童福祉法の中で24時間365日、子どもに伝えていくのは児童相談所と里親さん、そして児童養護施設、どうしても居場所がなくて児童相談所に駆け込んできたケースもございしますので、子どもに置かれている環境はどうなのかというのは一人ずつ当たっていくのは難しいと思いますが、せめて子どもの良くなっていく子育て支援とか、あるいは子どもの声を聞くとか、そういったことは大切なことですので、なかなか急にはできませんけれども地道に取り組んでいけたらなということを思います。やはり子どもの良さは日々発見、そして日々成長、親子で切磋琢磨していくことが子どもの良さなのかなといったことが今の世の中では反映できていないというところがありますので、この子たちが幸せになるように社会的

	<p>養護に関わっておる児童相談所も里親さんも児童養護施設も取り組んでおるといのが今の状況でありますので、そういったことを充実していければなど考えております。</p> <p>そして県下でできること、徳島には阿波踊りがあります。こどもが元気になること、なりたい自分になること、こういったことがいいことかなど。そしておじいちゃん、おばあちゃんと交流して、そういった中で昔はこうだったということも含めて少しでもこどもがおばあちゃんにも目を向ける、おじいちゃんにも目を向ける場面をつくりながらこどもの成長というものが健やかに伸びていければなど考えております。福祉とは普通の当たり前の、そして暮らしが幸せになる、良くなるということです。そしてこの子たちがせめて良くなっていくように、この子の未来に伝えていきたいなと私は思っておりますので、このこども未来会議を通じてみんなが寄り添えるように、こどもが成長していけるような場になっていければと思いますので、なかなか至らないことがあります。よろしくお願いいたします。以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。それでは、委員、よろしくお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>私は徳島県職員としてこども家庭支援の現場とか、障がい児者支援の現場で取り組んでまいりました。今は大学のほうで社会福祉、メンタルヘルス分野において関心を持って学生と一緒に学んでおります。</p> <p>先ほどのこども計画のご説明していただいた分ですけれども、トップバッターでこどもたちからのメッセージがメインになるかと思えます。このことに一つ感じたことを述べたいと思います。こどもの意見の聴取の結果として、例えばアンケート調査だけではなくて SNS プラットホームをつくったり、あるいは対面のグループワークをしてそこから意見をくみ上げたりというのは非常に有効かなと思います。プラスご検討いただきたいのは言葉でのコミュニケーションが難しいこどもさん、文字言語が難しいこどもさんもいます。これからご検討されるのでしょうか、その方たちの意見も含めて、例えば絵とかイラストとか、あるいはパソコンで作成したデザインとか辺りもどこかにあったら素敵だなと思えました。ということで、今後とも徳島の未来をつくるこどもたちの意見をいかにうまくくみ取っていくかという辺りに私たちも尽力したいと思えます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、委員、よろしくお願いいたします。</p>

<p>委員</p>	<p>大学では児童福祉とこども家庭福祉を専門にしております。少しだけ大学の話もさせていただくと、大学のほうでは保育施設の保育者、そして小学校の教諭として働く若い学生だけでなく現在、現場で現職として保育所、小学校などで保護者やこどもへの支援を行っている現職の先生たちを対象に遠隔の大学院ということで2年ほど前から全国から大学院に来ていただいています。私のところにも沖縄から岩手までさまざまな現職の院生、保育者の方が来られていますけれども、その方たちの話の中でもこどもへの支援の第一歩は保護者への支援であるというようなこともあって、その辺りの難しさというのは県内だけでなく全国で共通する部分があるのかなと思っています。</p> <p>また、このこども計画につきましては委員の皆さんがもう既におっしゃっていますけれども、こどものウェルビーイングを理念とするということで、ウェルビーイングという概念自体がこどもの人権や権利を基盤としている概念となっていて、そういったことを考え合わせますと、こどものウェルビーイングを理念とするという場合には、こども自身が自分の置かれている環境や状況、社会の現状みたいなことをどのように認識したり、受け止めたりしているのか、またこども自身が幸せと感じているのかどうかという辺りがすごく重要なポイントになってくるかなと思っています。そういったことも当然勘案されているこどもの意見の聴取ということで、他の委員からも多数意見が出ていると思うのですが、こどもの意見を聴取するさまざまな機会と同時にこどもたちの側に立って代弁する立場の大人、いわゆるアドボカシーとなるような代弁者を置いてグループワークをしたり、SNSの発信をしたり、意見聴取するようなことがなければ、なかなかこどもたちはとても賢いので、大人が望む、徳島県が望む回答を準備してしまうのかなと思っています。なので、一人一人のこどものさまざまな特性や在り方を尊重した上での意見聴取の機会ということが求められるのかなと感じました。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、よろしくお願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>よろしくお願いいたします。私は小児科医です。大学の在職中は虐待の予防に取り組むとか、心の問題という相談業務を受けていました。今は退職後、主に力を入れているのは保育園に行って、幼児期のこどもの声を吸い上げて、それを親に返すというか、保育士さんとともに親の子育て支援にこどもが家庭や親をどう捉えているかを見て、その声を親に返して子育て支援につなげていくというふうなことをやっています。幼児期のこどもには面と向かって実際に親や家</p>

	<p>庭をどう思うかといっても、こんなことは答えることはできませんので、遊びを通してならできると考えて箱庭遊びというのを取り入れて、それを保育士さんにやってもらって、その中でこどもが作品を作りながらどう家庭や親を捉えているかを遊びの中であれば話してきます。直接、親にこんなことをこどもが思っているよということ言えば酷になりますので、それを丸めながら保育士さんに親に伝えてもらうというふうなこと。先ほど委員も言われていましたけど実際に今、虐待は増えていますけど、さらに増えているのは虐待の水面下とか、潜在的なものとか、愛着に非常に飢えているといえば、これはちょっと誤解されてもいけませんけど、そういうようなこどもたちの幼児期の発言が聞こえる、それを実際に子育て支援の中に生かすことができれば本当に親とこどもの愛着関係も今以上にボンドが強くなるかなと思っています。</p> <p>ですから、先ほど資料5にありましたけど、これはいきなりお願いするのは何ですけど、この中に幼児期のこども、このこども大綱が生まれてからということがライフステージにおいてメインでありますので、小さい子もやはり声を聞かないといけないと思っています。この資料5の中にも何とか幼児期のこどもの声を吸い上げる方法を保育士さんとともに考えていただいて、その方法に取り組んでもらいたいなど。要するに保育士さんは本当にいろいろなことを言うこどもが増えている、困って子が増えているなどというのは直に身にもって感じていますので、それを少し吸い上げて徳島のこども計画の中に盛り込んでもらえればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>ありがとうございます。それでは委員、よろしくお願いいたします。</p>
委員	<p>私ども就職の支援ですとか、労働法についての周知とかを主にやっている中で事業主さまと接する機会があるときには育児・介護休業法なるものの周知などは織り込んだりしてやっているところがございます、限られた労働力を出産とか育児で辞めてしまうというのは非常にもったいないということもあったりとか、特に最近改正されました育児・介護に関する法律などは特に男性の育児休業取得が利用しやすいような柔軟な制度に近付いていっているところがございます、多分、国のほうでも今また7年の4月改正に向けてもいろいろ議論をやっているとは思いますが、男性の育児に携わる時間が長いと女性の継続して働いたりする率だったりとか、あとお二人目のお子さまが生まれる可能性も高まっているようなデータもあるところがございます、こういった育児・介護休業法の周知というのも大事なかなというところがございます。</p> <p>県庁の皆さまと昨年度なんかはご一緒させてもらって、いろいろ説明会等のご協力もいただいたりとかさせてもらって非常にありがたかったですけれど</p>

	<p>も、今後ともそういった形で改正法なりの周知とかで県庁の皆さまとも連携をさせていただければというところではございます。私のほうからは以上でございます。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして、よろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>現在、大学生をしております。</p> <p>私が大事だと思うのは高校生、大学生のこどもに関する貧困が大事だと思います。最近のニュースで「あしなが奨学金」という大きな奨学金の活動を行っている奨学金の団体が学生の希望に対して半数ほどしか支援、給付ができないといったようなニュースもあるように、お金がなくて必要だという学生に対して全員に支援をすることができないといったニュースもあったり、高校では高校の修学支援金や奨学金で授業料などは免除されたりするのですが、模試代であったり、大学進学のための必要な教材費などが足りなかったり、大学での授業料、入学金などが用意できずに進学をあきらめるといったケースもあると考えられます。特に非課税世帯であったり、生活保護の世帯ですと生活保護の世帯は生活保護を受けながら大学に通うことができなかつたり、非課税世帯であれば非課税で給付をもらいながら大学の授業料を確保するために働くと思うのですが、103万円を超えると税金がかかたり、学生の申請をしても130万円まで税金なんかがかかってしまうということで、親がもし身体障がいや精神障がいなどで収入がない場合は親の分の税金も学生なんか働いて賄うということになるので、さらに学生の機会の減少につながると考えられます。そのため奨学金ですと年収の制限に引っ掛からないと考えられますので、行政からの給付金、奨学金などの制度を広めていただきたいと思っております。私からは以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。続きまして委員、よろしく願いいたします。</p>
<p>委員</p>	<p>大学生生活とは別に、大学生だけで運営するこども食堂を週に一回の頻度で運営させていただいております。大学生がそういうこども支援の現場に出ることで、大学生なりのアプローチみたいなのができるのではないかと考えて特定の支援機関だつたりとか、大学とかだつたり依存することなく、自分たちで資金繰りからやることで自分たちなりの支援の形を現場を見ながらスピード感を持ってやれることを大切にしながら今はやらせていただいております。現場を見ていてこどもたちと接していると思うのは、こどもたちの声が聞かれるというか、聞いてもらえる時間がどんどん少なくなっているのではないかなとすご</p>

	<p>く思っていて、僕ら大学生がこども食堂に来たこどもたちに丁寧に、丁寧に話を聞いていってあげるとこどもたちは1～2時間でも話せるのではないかと思います。共働きとか核家族化とか、地域のつながりが希薄化していっている中でこどもたちがお母さん、お父さんに気軽に今日学校でこんなことあったんだと話せたり、地域でいえばおばちゃんがやっている駄菓子屋みたいなのところに、今日学校でこんなことがあったんだ、ちょっと今日学校で嫌なことがあってとこぼせる場というのがどんどん少なくなっている気がしています。そういうのをやりたいなと思って今、僕たちもやっているのですが、僕たちも結構、大学生生活の傍らみたいなのもあって週に一回が限界ですし、資金的にも大学生がやるとなると週に一回が限界というか、もはや無理しているぐらいの感じがあって、どうすればいいというのはいろいろ複雑な要因があって、僕からはどうすればいいということにはできませんけど、こどもたちにとって安心して気軽に話せる居場所みたいなものが僕はどんどん必要なのではないかなと思って活動をしています。僕からは以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。皆さん本当にたくさんご意見を頂戴しましてありがとうございます。</p>
<p>副会長</p>	<p>私自身はこどもが笑顔でいるために保護者が笑顔でいる必要があるのではないかと、ずっとそういったことに関心を持って現場であったりとか、今は子育て支援を専門にしながら研究と実践というところをしてきています。今年4歳になるこどもを子育て中で、まさに高齢出産、晩婚であり晩産でありというような現状に乗っかっているような感じで来ているところではありますが、親の目線でいうとこどものこともしっかり見たい、でも自分の人生もあきらめたくないみたいなのところで、いろんな葛藤を持ちながら仕事と子育てをしている人たちはやっぱり多いのではないかなというふうに意見を聞きながら思いました。アタッチメントの重要性も分かっているけれども果たして自分がそれをできているかといわれると、何となく反省するところがたくさんあるなと思いつつ、このお話も聞いておりました。</p> <p>そういったことをいろいろ皆さまからのご意見もお聞きしながら、やはりいろいろな立場の中で妊娠期から思春期、青年期までの居場所、それからそれに関連して経済的な問題であったりとか、機会の均等の問題、共働きも含めた子育て環境の問題等さまざまなものがたくさんあるということがすごく表現されていたかと思います。</p> <p>ライフステージ別でこども計画というのを立てていくというところが一つ特徴的なところというふうに事務局からもお話がありましたが、そのライフステ</p>

	<p>一ジ別でまとめていくとはいえども、それはやっぱり全てつながっていて、すなわち生涯発達といった観点で考えていくことが重要なのではないかというふうに改めて思っております。</p> <p>それから意見も先生方から出ておりましたが、いろんな親ガチャみたいものもありましたけれども、地域ガチャといったものにならないために地域の格差をなくしていくということもすごく重要ではないかと思っております。そのためには、さまざまな子どもさんの立場に立ったという意見もありましたが、意見の収集をどうしていくかというところは非常に重要な問題なのかと思っております。意見を伺いながら広く収集していけたらというふうに思っております。</p> <p>もう1つ、全ての子どもたち、それから子どもたちを取り巻く全ての人たちが笑顔になっていくためには、このこども計画というものが的確なものであるということをきっちりモニタリングしていくことも重要であるというふうに感じております。数値目標というふうにありますけれども、量的な問題だけが解決の策ではなくて、その中身というものも反映できるような目標というところも立てていけたらというふうに思っておりますので、また今後もさまざまなご意見を集めながら良いものをつくっていかれたらと思っております。以上です。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。本当に皆さまからさまざまなご意見を頂戴しましたし、熱いご意見をたくさんいただけて本当に嬉しく思っております。スピード感であったり、居場所づくりであったり、それぞれの周知徹底であったりとか、さまざまなことがあるかと思えますけれども事務局のほうからのご提案のものも皆さんに今回見ていただいて、より良いものがつくるといいなと思っております。</p>
	<p>それでは、事務局においては今日の委員の皆さまから頂戴した意見を参考に今後の議論のたたき台となる計画骨子として整理をしていただけたらと思っております。</p> <p>続きまして、議事の4番に入ります。議事(4)部会の設置及び今後のスケジュールについて、事務局よりご説明をよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>【議事4 説明】</p>
<p>会長</p>	<p>ただ今、事務局のほうから説明のありました資料6の部会案につきまして、別表2のようにご指名させていただいてもよろしいでしょうか。ご意見がもしございましたら、挙手にてご発言いただけたらと思っております。よろしいですか。</p>

<p>会長</p>	<p>【異議なし】</p> <p>では、特段ご意見等ございませんの、この内容、このメンバーで決定をいたします。</p> <p>続いて、各部会に部会長と副部会長を置くこととされておりますので、こちらのほうか指名をさせていただきたいと思ひます。皆さまお持ちの資料の別表2をご覧ください。</p> <p>計画策定部会Ⅰの部会長にはこども学を専門とされている四国大学短期大学部の姫田副会長、副部会長には徳島県助産師会会長の森脇委員を指名したいと思ひております。②計画策定部会Ⅱの部会長には県の社会福祉審議会児童福祉専門分科会の会長を務めていただひている徳島大学の二宮委員、副部会長には社会福祉士会の漆原委員。③政策戦略部会の部会長には児童福祉を専門とされている鳴門教育大学の木村委員、副部会長には「こどもまんなか」を実現するための計画でございますので、この中で最年少となります一般社団法人うみのこてらすの川邊委員になっていただひたいと思ひております。以上の皆さま方に部会長、副部会長をお願いしたいと思ひておりますけれどもよろしいでしょうか。</p>
<p>会長</p>	<p>【異議なし】</p> <p>では、特段ご意見等ございませんので、この内容で決定をいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>以上で本日決められている議事は全て終了いたしました。皆さんに真ん中のところで1人2～3分お願ひいたしますといったところが、今日の会議の一番大切なところだったかと思ひております。その皆さんのご意見が各部会でまた活発に議論していただき、そしてより良いものになっていくといいかと思ひますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。会議後に気付いた点等がございましたら事務局、こども未来政策課までご連絡をお願ひいたします。</p> <p>それでは、本日の議事を終了いたします。以降の進行は事務局にお返しいたします。本当に皆さん、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>